

オヨーンビリグ教授講演会

日時：2009年6月25日（木）14:00-15:30

場所：地球研セミナー室 3,4

演題：中央ユーラシア草原地域オイラト遊牧民の移動

講演者：オヨーンビリグ（中国人民大学教授）

使用言語：日本語

要旨：

オイラト（Oyirad）人は、モンゴル系遊牧民であり、チンギス・ハーン時代にモンゴル帝国の一員であった。元朝崩壊後、オイラト人は東モンゴルと対立し、独立した政治集団となり、17世紀の後半に強大な遊牧帝国を創り、18世紀の中期ごろ、清朝に征服された。今、オイラト人は、中国の新疆、青海、内モンゴルのアラシャン盟及びモンゴル国の西部とロシアのカルマク共和国などの草原地域に広がっている。

12世紀末13世紀初め、オイラト人がモンゴル高原の北方に、セリング河北方から、エニセイ川上流あたりまで移動していた。17世紀に、オイラト人は、南は天山山脈から北のイルティシュ河中流、東はアルタイ山から西のバルハシ湖までの地域に広がるようになり、その中の二つの集団が、更にウオルガ河下流とチベット・青海高原をそれぞれ征服した。17世紀はオイラト史上の重要な時代であり、中央アジアの歴史においても大きな影響をもたらした時代である。

17世紀のオイラト人の移動はどのように行われたのか？各遊牧集団がどのように分布していたか？オイラト人の移動と分布が、中央アジアの国家と地域にどのような影響をあたえたのか？この発表では、オイラト人の遊牧地の変遷を考証すると同時に、以上の諸問題に触れたい。